

東日本大震災からの復興

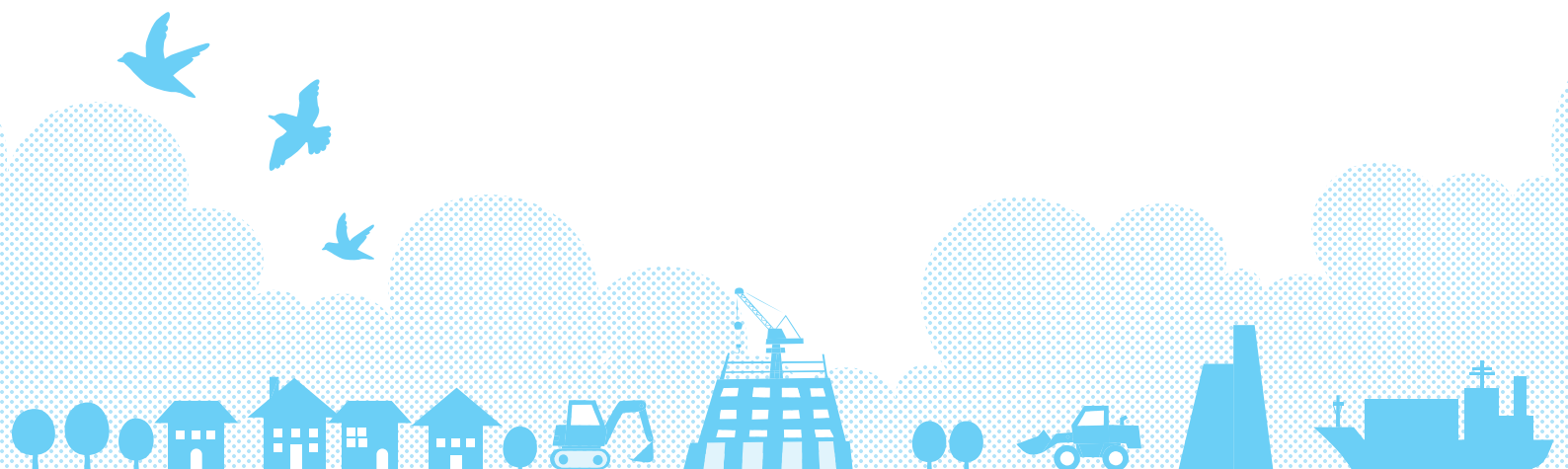
～これまでの6年間と今後の取り組み～

宮古市東日本大震災復興計画 計画期間 平成23年度～平成31年度（9年間）

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
復旧期			再生期			発展期		



銚ヶ崎地区に整備したラウンドアバウト（環状交差点）の供用開始式（平成29年3月12日）



東日本大震災からの復興

～これまでの6年間と今後の取り組み～

目次

1. はじめに	02
2. 東日本大震災から6年間の道のり	03
3. 宮古市東日本大震災復興計画 3つの柱それぞれの取り組み	
(1) すまいと暮らしの再建	06
(2) 産業・経済復興	09
(3) 安全な地域づくり	12
4. 発展期に向けた取り組み 中心市街地拠点施設整備・ スマートコミュニティ	15
三陸ジオパーク	16
道路交通網	17
フェリー航路	18
5. おもな復興事業の現況	19

東日本大震災の概要

■地震と津波の状況

- (1)地震発生日時 平成23年3月11日(金) 午後2時46分
- (2)震源地 三陸沖北緯38度6.2分、東経142度51.6分、牡鹿半島の東南東約130km付近
- (3)震源の深さ 約24km
- (4)地震の規模 マグニチュード9.0
- (5)震度 震度5強/茂市、震度5弱/五月町、鉾ヶ崎、長沢、田老、川井、門馬田代
- (6)津波の最大波 平成23年3月11日(金)午後3時26分 8.5m以上

■被害の状況

- (1)人的被害 死者517人(うち行方不明者94人)
- (2)住家被害 4,449棟(全壊2,677棟、大規模半壊688棟、半壊640棟、一部損壊444棟)
- (3)非住家被害 4,639棟(全壊3,291棟、大規模半壊647棟、半壊534棟、一部損壊167棟)
- (4)被害推計額 総額2,457億円※国・県の施設、鉄道、電信電話、電気事業者関係等の被害を除く
(主な被害推計額/住宅1,496億円、商工労働関係施設281億円、水産関係施設215億円、漁港施設150億円)
- (5)被災世帯 4,582世帯、11,979人※被災世帯数は罹災程度が半壊以上、発災時数値

1 はじめに



「宮古市は必ずや復興いたします」。

これは、東日本大震災後、私が常に市民の皆様と呼びかけてきた言葉です。被災された方々に寄り添い、この思いを共有する皆様のご支援・ご協力をいただきながら、新しいまちづくりに邁進しております。

山口地区の災害公営住宅が1月に完成、また、鍬ヶ崎・光岸地地区の宅地整備がこの3月におおむね完了となることから、住まいの再建の受け皿となる住宅や宅地がすべて整うこととなります。今後も引き続き、「すまいと暮らしの再建」をはじめ、「産業・経済復興」、「安全な地域づくり」の3つの柱に基づき、復興の取り組みを進めてまいります。

さて、平成29年度からは、復興計画における「発展期」に入ります。これまでの取り組みに加えて、震災以前よりも活力があり、魅力あふれるまちとして発展するための取り組みに力を入れてまいります。

産業・経済復興の分野では、このたび増設された魚市場の水揚増大を図りながら、つくり育てる漁業の推進とともに、水産業の発展に取り組んでまいります。観光面では、三陸ジオパークが本年秋に日本ジオパークの再認定の時期を迎えます。世界ジオパークの認定も目指した取り組みを進めてまいりますとともに、国内外からの誘客に向けた観光DMO事業やインバウンド事業を推進してまいります。

安全な地域づくりのための中心市街地拠点施設は、昨年9月に建設工事に着手し、平成30年度の完成に向け、工事を進めております。平成30年度には、岩手県初となるフェリー航路が、宮古・室蘭間に開設され、山田線宮古・釜石間も全線復旧し、三陸鉄道により、南北リアス線と合わせた一貫運行が行われます。三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路の整備も着実に進んでおり、人と物の流れが大きく変わろうとしております。これらの交通ネットワークを活用した産業・経済発展の取り組みを進めてまいります。

これからも、市民の皆様とともに、未来を切り開き、活気と笑顔があふれる『「森・川・海」とひとが共生する安らぎのまち』の実現のために全力で取り組んでまいります。

平成29年3月

宮古市長 山本 正徳

(平成 25 年)

2014 年(平成 26 年)

2015 年(平成 27 年)

6月 9月 12月

1月 3月 6月 9月 12月

1月 3月 6月

避難者数
6,174 人

避難者数
4,518 人

災害公営住宅整備
約 5%

災害公営住宅整備
約 33%

「すまいの再建」
第 3 次独自支援

住宅再建率
約 45%

住宅再建率
約 60%

養殖施設復旧率
約 99%

水産加工施設再開率
約 40%

養殖施設復旧率
100%

水産加工施設再開率
約 50%

漁港復旧率
約 17%

漁港復旧率
約 56%

漁船復旧率
約 99%

平成 25 年観光客数
約 111 万人

平成 26 年観光客数
約 123 万人

高台移転宅地整備率
約 10%

高台移転宅地整備率
約 32%

震災ガレキ処理率
100%

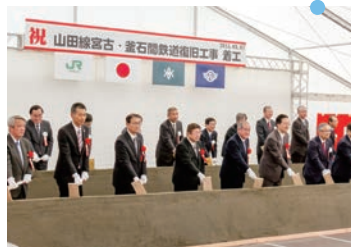
スマートコミュニティ
カーシェアリング
事業開始

2014(平成26年)

- 千鶏地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(3戸)が完成(12月)
- たるう観光ホテル等の震災遺構保存への支援を復興庁が発表(11月15日)
- 宮古盛岡横断道路「根市」箱石間の中心杭設置式を実施(11月8日)
- 崎山地区防災集団移転促進事業による宅地(6戸)が完成(10月)
- 三陸ジオパークが日本ジオパークに認定(9月24日)
- コミュニティFM「みやこハーバーラジオ」が開局(8月26日)
- 宮古市広域総合交流促進施設「シートピアあなど」が復旧し、供用を再開(7月6日)
- 摂待地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(3戸)が完成(7月)
- 三陸復興国立公園が創設(5月24日)
- 重茂災害住宅の入居を開始(7月8日)
- 宮古市応急仮設住宅撤去・集約化計画を策定(7月1日)
- 宮古市新市10周年記念式典を挙行(6月14日)
- 高浜・金浜地区防災集団移転促進事業による宅地(39戸)が完成(6月)
- 西ヶ丘災害住宅の入居を開始(5月15日)
- 日の出町災害住宅の入居を開始(5月13日)
- 宮古港開港400周年記念開港時代行列・記念式典を挙行(4月24日)
- 和見町災害住宅、近内災害住宅2号棟、崎山災害住宅の入居を開始(4月11日)
- 宮古市中心市街地拠点施設整備事業基本計画を策定(3月25日)
- 宮古市東日本大震災四周年追悼式を挙行(3月11日)
- 川崎近海汽船株がフェリー新航路「宮古-室蘭」開設の検討を開始(3月10日)
- JR山田線(宮古-釜石間)の復旧工事の着工式を実施(3月7日)
- 重茂地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(17戸)が完成(3月)
- JR山田線(宮古-釜石間)の復旧及び三陸鉄道への移管について、関係自治体、三陸鉄道及びJR東日本が基本合意(2月6日)
- 竹下巨復興相が宮古市を視察(1月22日)
- 赤前地区防災集団移転促進事業による宅地(42戸)が完成(1月)
- 宮古市民文化会館が復旧し、式典と市民による舞台芸術発表を開催(12月21日)
- 赤前災害住宅の入居を開始(12月3日)
- 宮古市中心市街地拠点施設整備事業基本構想を策定(11月14日)
- 音部地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(3戸)が完成(7月)
- 石浜地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(2戸)が完成(7月)
- リアスハーバー宮古が復旧し、供用を再開(5月29日)
- 環境省整備の震災メモリアルパーク中の浜がオープン(5月24日)
- 三陸鉄道北リアス線「小本-田野畑間」の運転再開により、全線運転再開(4月6日)
- 高浜災害住宅、近内災害住宅1号棟の入居を開始(4月1日)
- 震災による災害廃棄物の処理が完了(3月31日)
- 宮古市東日本大震災三周年追悼式を挙行(3月11日)
- 堀内地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(2戸)が完成(3月)
- 法の協地区防災集団移転促進事業による宅地(12戸)が完成(3月)
- 田老地区三王団地の現場見学会を開催(2月2日)
- 災害公営住宅の入居者募集を開始(1月15日)

2015(平成27年)

- 千鶏地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(3戸)が完成(12月)
- たるう観光ホテル等の震災遺構保存への支援を復興庁が発表(11月15日)
- 宮古盛岡横断道路「根市」箱石間の中心杭設置式を実施(11月8日)
- 崎山地区防災集団移転促進事業による宅地(6戸)が完成(10月)
- 三陸ジオパークが日本ジオパークに認定(9月24日)
- コミュニティFM「みやこハーバーラジオ」が開局(8月26日)
- 宮古市広域総合交流促進施設「シートピアあなど」が復旧し、供用を再開(7月6日)
- 摂待地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(3戸)が完成(7月)
- 三陸復興国立公園が創設(5月24日)
- 重茂災害住宅の入居を開始(7月8日)
- 宮古市応急仮設住宅撤去・集約化計画を策定(7月1日)
- 宮古市新市10周年記念式典を挙行(6月14日)
- 高浜・金浜地区防災集団移転促進事業による宅地(39戸)が完成(6月)
- 西ヶ丘災害住宅の入居を開始(5月15日)
- 日の出町災害住宅の入居を開始(5月13日)
- 宮古港開港400周年記念開港時代行列・記念式典を挙行(4月24日)
- 和見町災害住宅、近内災害住宅2号棟、崎山災害住宅の入居を開始(4月11日)
- 宮古市中心市街地拠点施設整備事業基本計画を策定(3月25日)
- 宮古市東日本大震災四周年追悼式を挙行(3月11日)
- 川崎近海汽船株がフェリー新航路「宮古-室蘭」開設の検討を開始(3月10日)
- JR山田線(宮古-釜石間)の復旧工事の着工式を実施(3月7日)
- 重茂地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(17戸)が完成(3月)
- JR山田線(宮古-釜石間)の復旧及び三陸鉄道への移管について、関係自治体、三陸鉄道及びJR東日本が基本合意(2月6日)
- 竹下巨復興相が宮古市を視察(1月22日)
- 赤前地区防災集団移転促進事業による宅地(42戸)が完成(1月)
- 宮古市民文化会館が復旧し、式典と市民による舞台芸術発表を開催(12月21日)
- 赤前災害住宅の入居を開始(12月3日)
- 宮古市中心市街地拠点施設整備事業基本構想を策定(11月14日)
- 音部地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(3戸)が完成(7月)
- 石浜地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(2戸)が完成(7月)
- リアスハーバー宮古が復旧し、供用を再開(5月29日)
- 環境省整備の震災メモリアルパーク中の浜がオープン(5月24日)
- 三陸鉄道北リアス線「小本-田野畑間」の運転再開により、全線運転再開(4月6日)
- 高浜災害住宅、近内災害住宅1号棟の入居を開始(4月1日)
- 震災による災害廃棄物の処理が完了(3月31日)
- 宮古市東日本大震災三周年追悼式を挙行(3月11日)
- 堀内地区漁業集落防災機能強化事業による宅地(2戸)が完成(3月)
- 法の協地区防災集団移転促進事業による宅地(12戸)が完成(3月)
- 田老地区三王団地の現場見学会を開催(2月2日)
- 災害公営住宅の入居者募集を開始(1月15日)



3 宮古市東日本大震災復興計画

3つの柱それぞれの取り組み

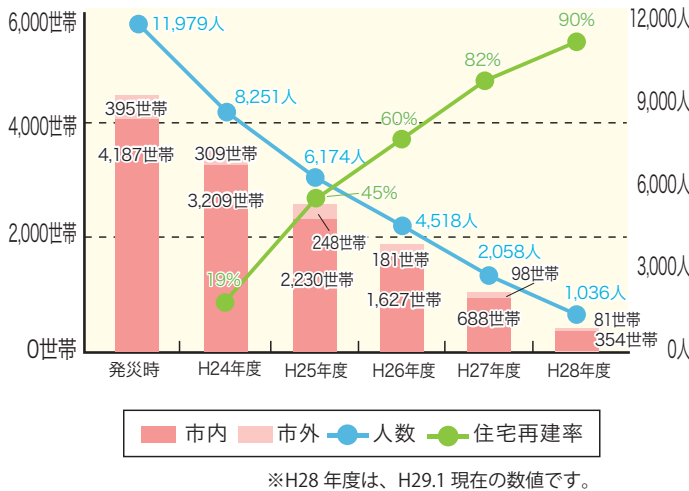
(1) すまいと暮らしの再建

■ 被災者の再建支援

□ 避難者について

災害公営住宅や宅地の整備の進捗に伴い、住まいの再建が加速しており、一刻も早い住まいの再建に向け、今後も支援を継続していきます。

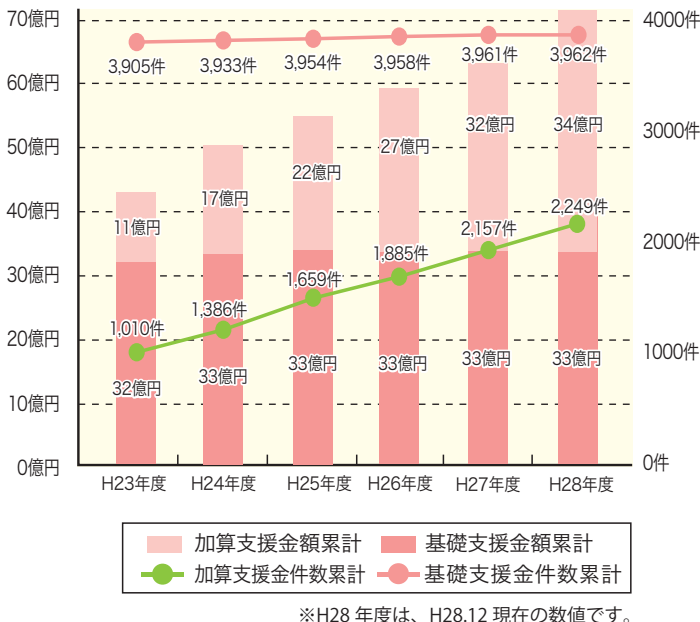
避難者の推移等 (H29.1現在)



□ 支援金の交付

住宅の被害に応じて支給する基礎支援金及び住宅の再建方法に応じて支給する加算支援金を交付しています。平成28年12月までに、合わせて約67億円を交付しました。
(注)平成28年度より、件数の集計方法をのべ支給件数から実支給件数に変更)

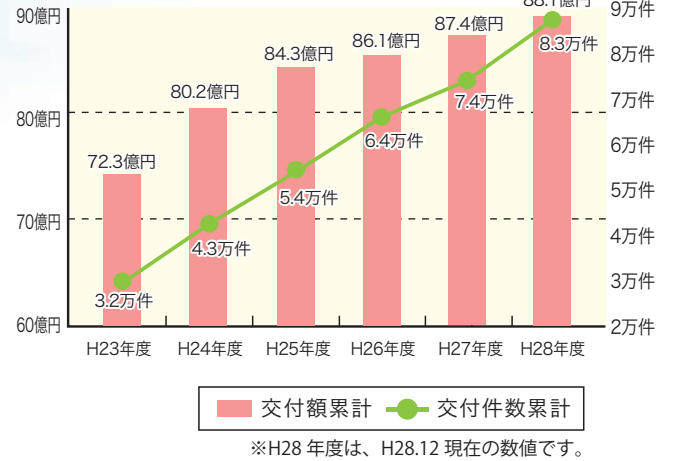
支援金の交付状況 (H28.12現在)



□ 義援金の交付

平成28年12月までに、国、県及び市に寄せられた義援金約88億円を延べ16回交付しました。

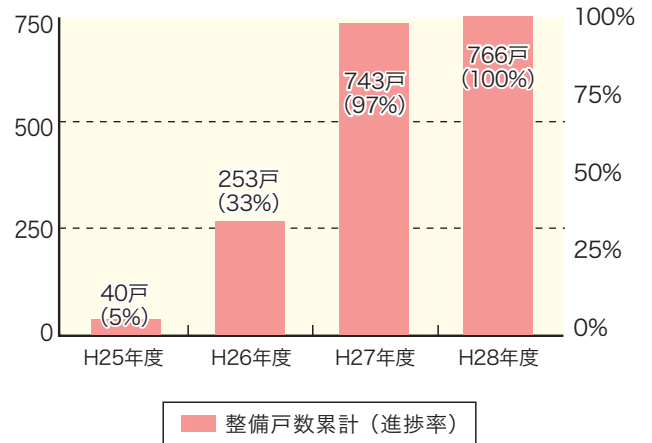
義援金の交付状況 (H28.12現在)



□ 災害公営住宅の整備

平成29年1月に山口災害住宅が完成し、整備予定の25団地766戸がすべて完成しました。

災害公営住宅整備事業の進捗状況



完成した山口災害住宅

(平成29年3月)

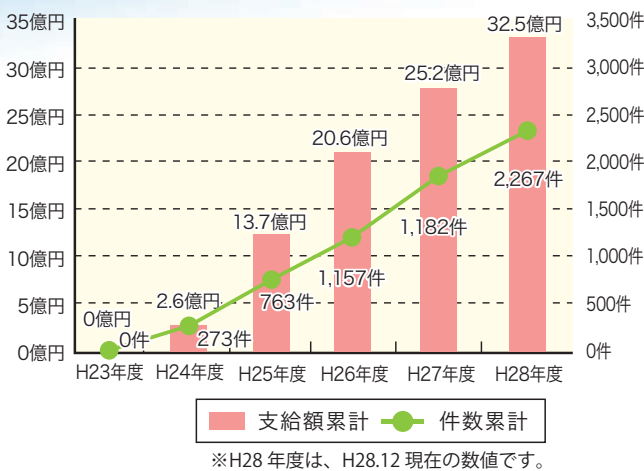
□「すまいの再建」への宮古市独自支援

被災者の住宅再建を支援するため、「すまいの再建促進事業」など6つの市独自支援により、これまで延べ2,267件、約32億5千万円を支給しました。

【6つの市独自支援策】

- 1 すまいの再建促進事業
- 2 浸水宅地等復旧支援事業
- 3 地域木材利用住宅推進事業
- 4 定住促進住宅建築利子補給事業
- 5 浄化槽再設置支援事業
- 6 被災者転居費用支援事業

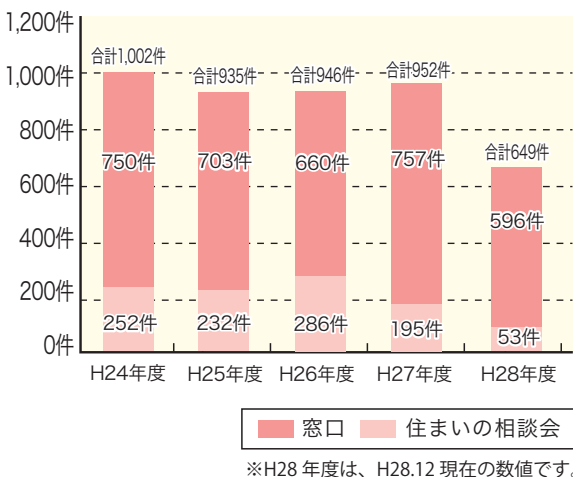
「すまいの再建」独自支援の状況 (H28.12現在)



□被災者生活相談事業等の状況

市生活課相談窓口で被災者の生活相談を行っています。また、毎月1回「住まいの相談会」を実施しています。

被災者生活相談状況(H28.12現在)



■福祉の充実

□被災者への福祉支援の取り組み

被災者を対象に、障がい福祉サービス等の利用者負担の免除や、保育料等の免除を実施しています。また、千歳保育所の流失に伴う重茂児童館までの送迎バスの運行を行っています。

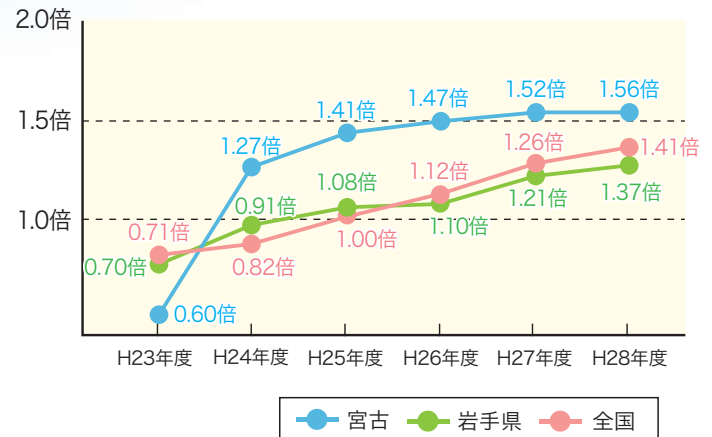
■雇用の維持・確保

□有効求人倍率の推移

これまで、国の震災等緊急雇用創出事業の活用などにより、雇用確保や被災者の生活の安定のため取り組んできました。

また、常用雇用への移行を支援するトライアル雇用奨励金、離職者の資格取得訓練費用を助成する離職者資格取得支援補助金や再就職支援セミナーの実施などの支援を行っています。

有効求人倍率の推移(各年11月現在)



■保健・医療の確保・充実

□被災者の健康維持・増進と心のケアの推進

被災者の心身の健康維持・増進のため、これまでに延べ約1万7千世帯への訪問を実施(平成28年度は約700世帯(平成28年12月末現在))しました。今後も引き続き、訪問による健康相談等の支援を実施していきます。

□保健・医療施設の復旧

田老診療所は、平成28年8月に三王団地内に移転復旧しました。宮古保健センターは、市民総合体育館敷地内の仮設庁舎で業務を行っており、平成30年度に本復旧する見込みです。(P15中心市街地拠点施設整備事業参照)



診療を開始した田老診療所の待合室の様子 (平成28年10月)

■学校教育環境の確保・充実

□児童・生徒の教育環境を整えるための取り組み

すべての学校が復旧を終え、再開しています。赤前・重茂小学校及び第二中学校校庭の応急仮設住宅は、平成29年2月にすべて撤去され、平成29年度に校庭の復旧工事を行います。また、鉾ヶ崎小学校の校庭の応急仮設住宅については、平成29年度に撤去される見込みです。

震災に伴う通学バスの運行、学用品費や給食費などの必要な援助等を行っています。



撤去が進む第二中学校校庭の応急仮設住宅（平成28年12月）

□児童福祉施設の復旧

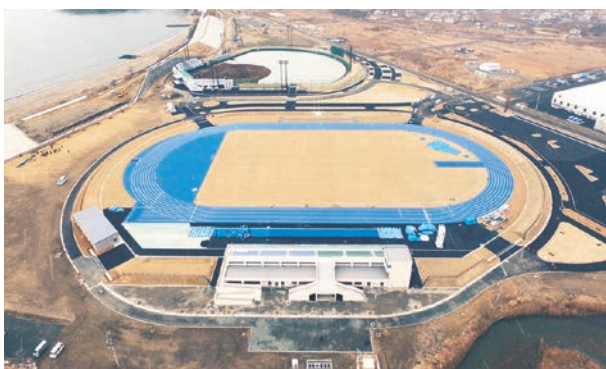
津軽石及び田老保育所は平成28年4月に移転復旧しました。



津軽石保育所の園庭で元気に遊ぶ子どもたちの様子（平成29年3月）

□スポーツレクリエーション施設の復旧

藤の川海水浴場は平成25年3月、リアスハーバー浮桟橋は平成27年3月、田老野球場は平成28年3月にそれぞれ復旧しました。宮古運動公園は、平成29年7月に供用を開始する見込みです。



復旧工事中の宮古運動公園（平成29年3月）

■地域コミュニティの強化・再生

□新たなコミュニティづくりのための取り組み

仮設住宅自治会や再建先でのコミュニティの再生等への支援を実施しています。

■生涯学習等施設の復旧と文化財の保存・継承

□社会教育施設の復旧

磯鶏公民館は平成24年8月、田老公民館は平成25年6月、津軽石及び鉾ヶ崎公民館は平成28年3月にそれぞれ復旧しました。高浜地区センターは平成29年5月に復旧する見込みです。



完成間近の高浜地区センター（平成29年3月）

□文化財の保存・継承のための取り組み

復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査事業は、平成23年5月から実施し、調査対象68箇所すべての野外調査が完了しました。平成28年7月には、発掘した埋蔵文化財の整理収蔵施設も併設した崎山貝塚縄文の森公園複合施設が完成し、資料整理及び発掘調査報告書の刊行作業を実施しています。



崎山貝塚縄文の森ミュージアム内での展示見学（平成28年10月）

□文化施設の復旧

市民文化会館は平成26年12月に復旧し、芸術文化活動の中心拠点施設として大きな役割を果たすとともに、宮古市の復興のシンボルとなっています。

(2) 産業・経済復興

■ 農業の復興・再生

□ 被災した農地・農業用施設の復旧

これまで、被災した農地・農業用施設を原形復旧工事やほ場整備などにより復旧してきました。平成29年度は津軽石・赤前地区の復旧を見込んでいます。



津軽石・赤前地区のほ場整備の様子(平成28年12月)

□ 生産者の再建支援のための取り組み

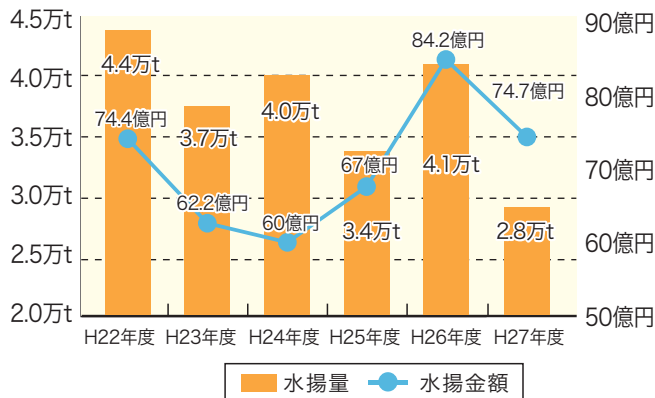
被災農地等の復旧作業を共同で行う取り組みへの助成事業を行っています。また、被災農業者に農業機械を貸与する事業を行っています。

■ 水産業の復興・再生

□ 宮古市魚市場について

宮古市魚市場は、震災の1ヶ月後には仮復旧で業務を再開し、その後、平成24年度中に本復旧しました。また、平成27年度から2カ年にわたり行われてきた市場棟の増築等の工事は平成29年3月に完了します。

宮古市魚市場の水揚げの推移



増築工事中の宮古市魚市場

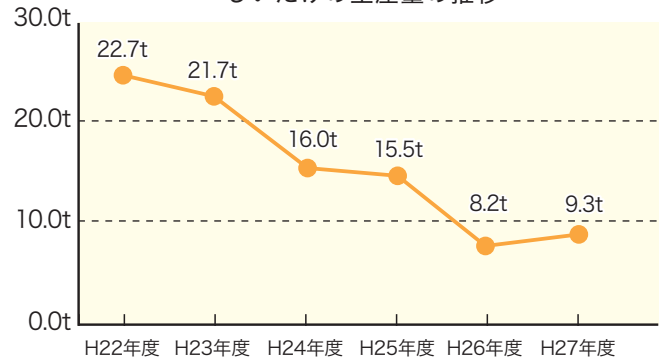
(平成29年3月)

■ 林業の復興・再生

□ 生産施設等の復旧

被災した森林や特用林産物の生産施設の復旧に取り組んでいます。特に、しいたけの生産量は、震災前に比べて減少しており、引き続き生産施設の導入を支援し、生産量の回復に取り組めます。

しいたけの生産量の推移

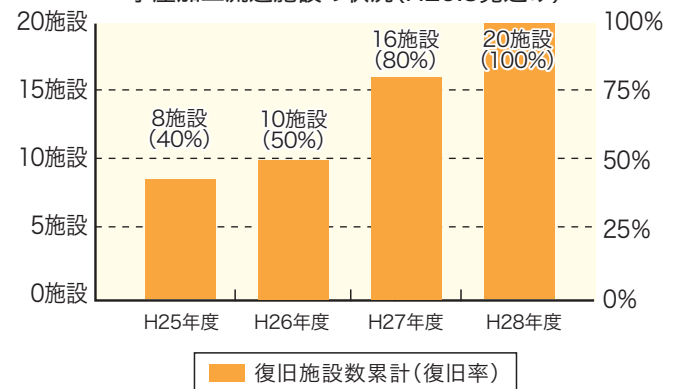


※宮古市しいたけ主産地化推進協議会調べ

□ 水産加工流通施設の復興のための取り組み

平成24年度に策定した「宮古市水産加工流通業復興計画」に基づき、水産加工流通施設の整備に対する補助事業を実施しています。平成28年度に再建希望の20施設全ての完成を見込んでいます。

水産加工流通施設の状況(H29.3見込み)



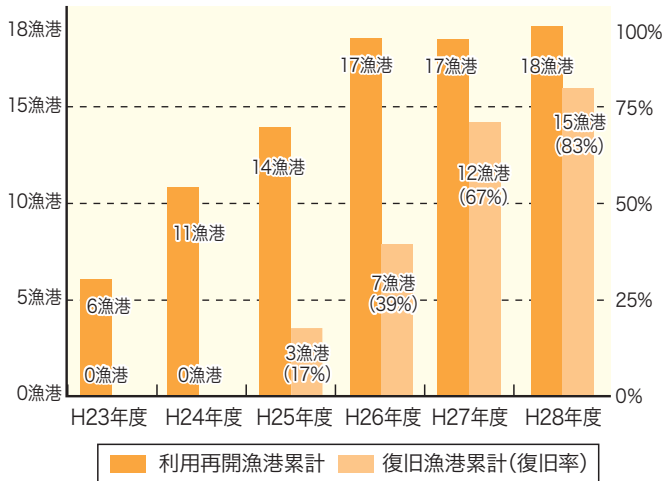
整備が進む鯉ヶ崎地区の水産加工流通施設

(平成29年1月)

□ 漁港の復旧

被災した市内18 漁港の防波堤等の復旧を行っています。平成27年度までに12漁港が復旧しました。また、平成28年度中に3漁港が復旧し、平成29 年度に残るすべての漁港が復旧する見込みです。

被災18漁港の状況(H29.3見込み)

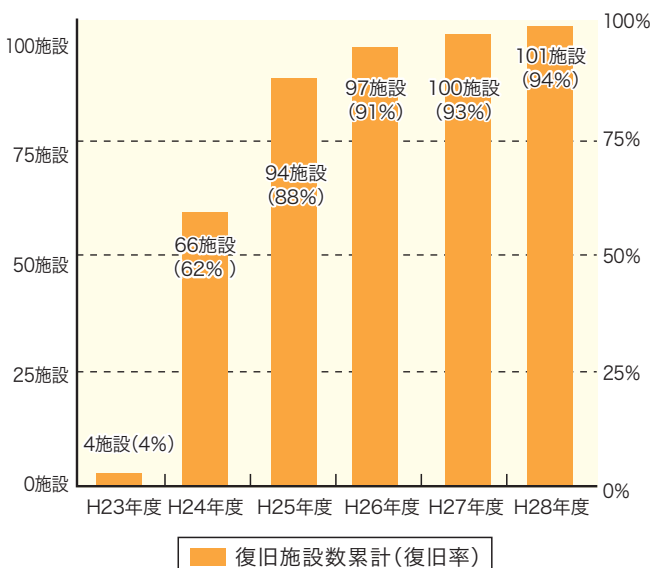


復旧工事が進む宿漁港の様子 (平成 28 年 12 月)

□ 水産業共同利用施設の復旧

被災した冷凍冷蔵施設等の水産関連施設を共同利用施設として復旧する事業を行い、平成 28 年度までに復旧希望 107施設のうち101施設が復旧し、平成29年度には5施設が復旧する見込みです。

水産業共同利用施設の復旧状況(H28.12現在)

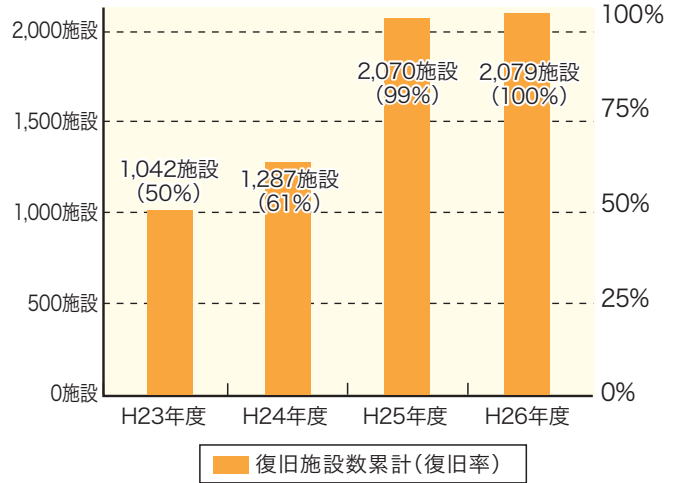


※H28年度は、H28.12 現在の数値です。

□ 養殖施設の復旧

被災したワカメ、コンブ等の養殖施設を共同利用施設として復旧する事業を行い、平成 26 年度までに再開希望の 2,079 施設すべてが復旧しました。

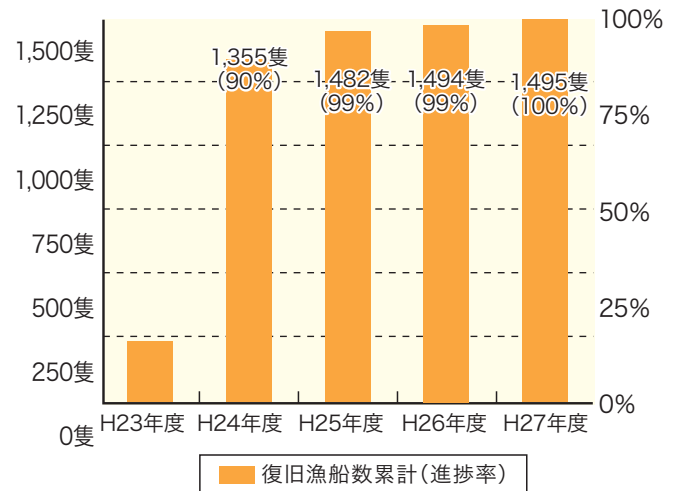
養殖施設の復旧状況



□ 共同利用漁船等の復旧

漁業の要である漁船を共同利用漁船として復旧する事業を行い、平成 27 年度までに復旧希望の 1,495 隻すべてが復旧しました。

共同利用漁船の復旧状況



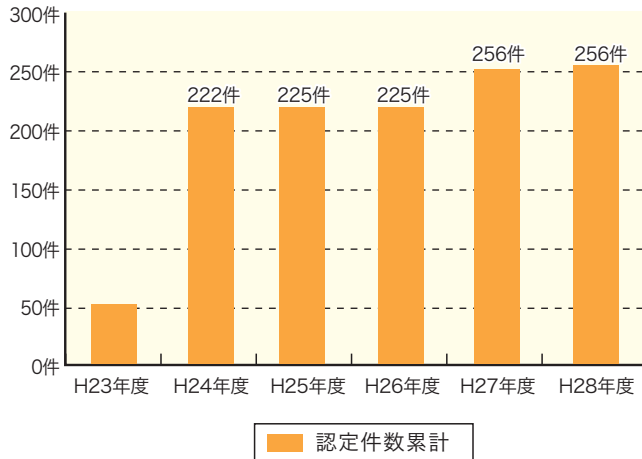
共同利用施設として日出島漁港に整備されたクレーン (平成 29 年 1 月)

■商業の復興・再生

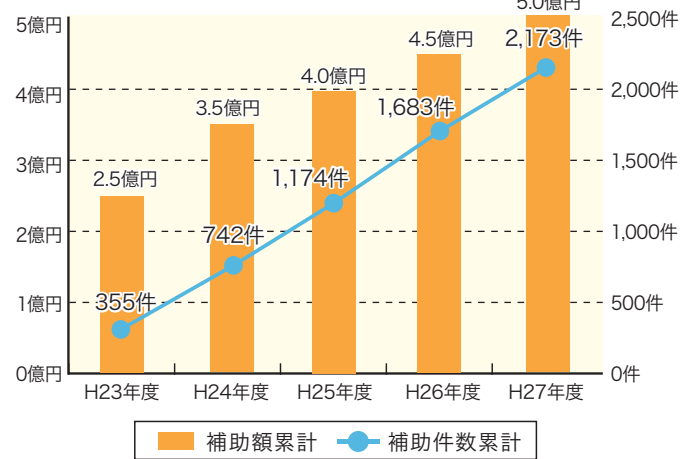
□事業再開のための取り組み

中心市街地の再建希望の事業者は、グループ補助金等により、ほぼ再建しています。平成27年9月にグループ補助金が交付決定された田老、鉾ヶ崎地区の事業者は、まちづくり事業の進捗に伴い、再建が本格化しています。

グループ補助金認定件数（H28.12現在）



震災復興中小企業者支援事業の状況



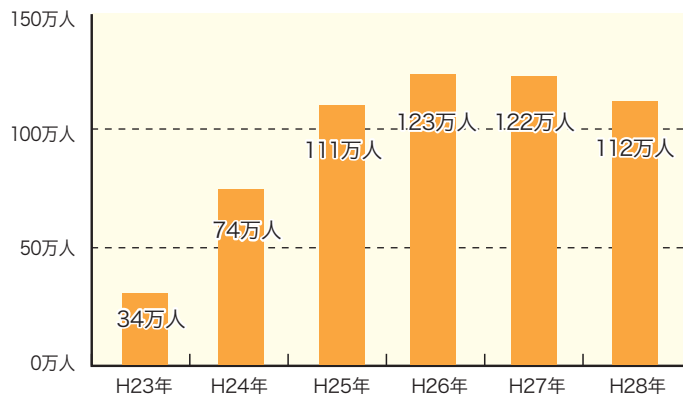
■観光の復興・再生

□観光施設の復旧と誘客のための取り組み

シートピアなどは平成25年7月に供用を再開、姉吉キャンプ場はデイキャンプ場として平成28年3月に復旧しました。また、震災による法面の崩落など危険個所の改修を行っていた浄土ヶ浜園地内道路は、平成28年度までに整備を完了しました。

平成28年1月に「重点道の駅」に選定された「道の駅たろう」は、同年7月に仮オープンしました。平成30年度に本格オープンする見込みです。

観光客の入込状況の推移

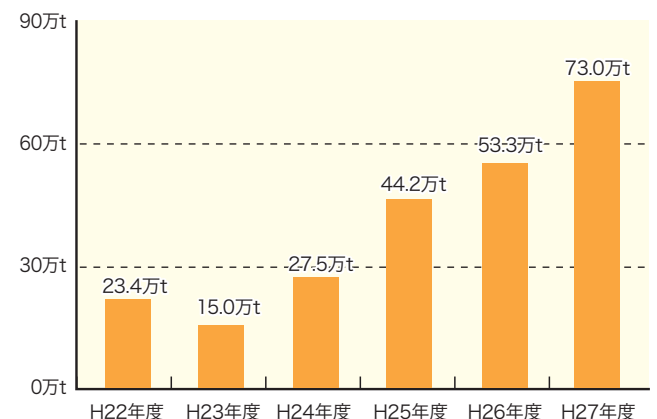


■港湾の復興・再生

□港湾の復興・再生のための取り組み

藤原ふ頭は、岸壁が平成26年3月に復旧し、工業用地海側には、防潮堤の整備が進められています。今後は、フェリー航路開設に向けての取り組みを強化していきます。（フェリー航路についてはP18参照）

宮古港貨物取扱量の推移



整備された浄土ヶ浜園地内道路
(平成28年5月)



道の駅たろうに建設中のたろう潮里ステーション
(平成29年3月)



一部営業を開始した道の駅たろう
(平成28年7月)

(3) 安全な地域づくり

■ 災害に強いまちづくりの推進

□ 都市再生区画整理事業の進捗状況

(鎌ヶ崎・光岸地地区) 平成29年3月までにおおむねの宅地の使用が可能となり、平成29年度は、公園の整備等を行います。



住宅の建設が進む鎌ヶ崎地区 (平成29年3月)

(田老地区) 平成28年3月までに宅地はすべて使用が可能となり、平成28年度は、公園整備等を行いました。平成29年度は、防潮堤接続部の道路の整備を行います。

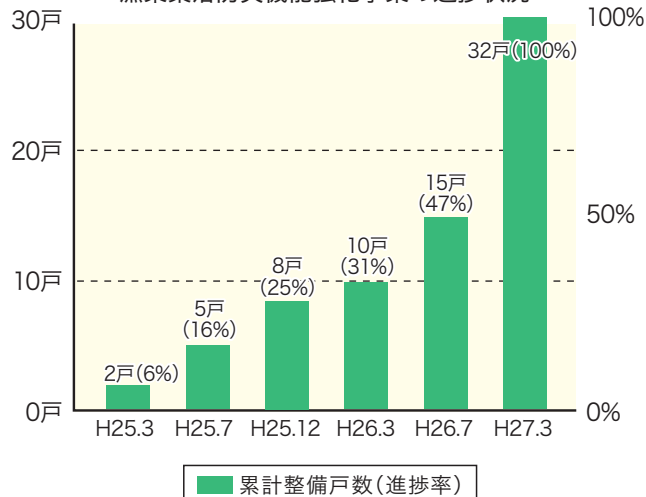
□ 漁業集落防災機能強化事業の進捗状況

本事業による7地区の宅地は、平成27年3月までにすべて完成しました。集落道等の整備を行う女遊戸地区及び田老野原地区については、平成29年度中に完成する見込みです。(地区別の現況は、P19参照)



集落道の整備を進めている女遊戸地区の様子 (平成29年3月)

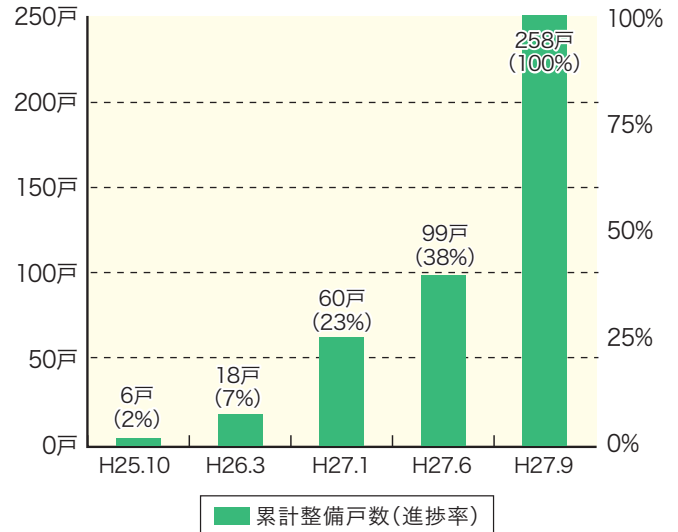
漁業集落防災機能強化事業の進捗状況



□ 防災集団移転促進事業の進捗状況

本事業による5地区の宅地は、平成27年9月までにすべて完成しました。引き続き、移転される方への建設補助、移転補助を行っています。

防災集団移転促進事業の進捗状況



住宅の建設が進む田老地区三王団地 (平成29年1月)

□ 津波復興拠点整備事業の進捗状況

中心市街地地区及び津軽石地区の2地区で事業を行っています。津軽石地区では、地域活動と防災の新たな拠点として被災公共施設3施設(保育所、公民館兼出張所及び消防屯所)を集約し、平成28年4月に供用開始しました。(中心市街地地区についてはP15参照)



津軽石地区の津波復興拠点の公共施設合同開所式の様子 (平成28年4月)

□上下水道の復旧・整備の取り組み状況

これまでに被災した上下水道施設の復旧・復興工事を行い、平成 28 年度には法の脇地区の配水管布設工事が完了しました。平成 29 年度には鎌ヶ崎・光岸地地区の上下水道施設整備が完了、新川町・藤原地区の浸水対策のためのポンプ場整備に着手する見込みです。

□河川復旧

被災した 21 箇所 of 河川については、これまでに 19 箇所が復旧し、平成 30 年度中の完了を見込んでいます。

■災害に強い交通ネットワークの形成

□高規格幹線道路等整備促進のための取り組み

国及び県による復興道路・復興支援道路事業の促進のため、地元との調整などへの協力を行っています。市道北部環状線の山口～佐原間は、平成 28 年 12 月に供用を開始し、近内～山口間は、平成 30 年度に供用を開始する見込みです。(路線別の現況は P19、道路交通網は P17 参照)

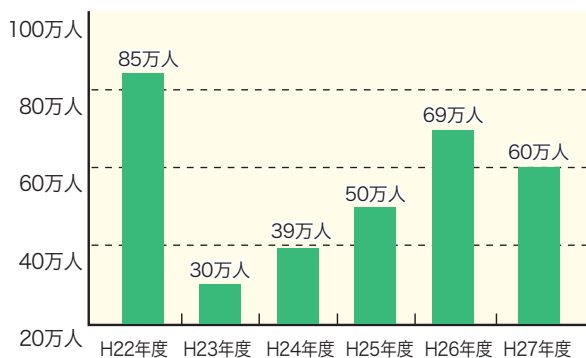


北部環状線（山口～佐原間（佐原橋））（平成 28 年 12 月）

□公共交通の復旧と再生のための取り組み

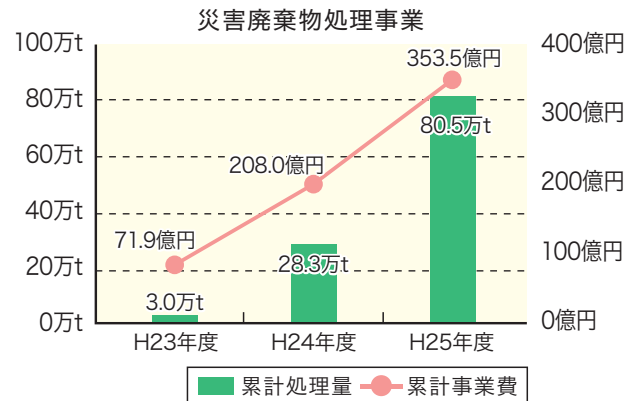
三陸鉄道は、平成 26 年 4 月 6 日から全線で運転を再開しています。

三陸鉄道の利用者数の推移



□災害廃棄物処理

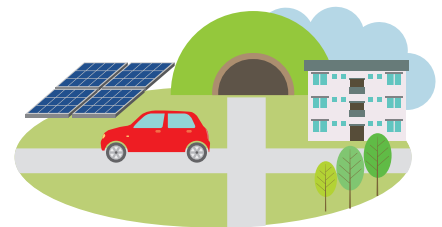
災害廃棄物の適正処理を実施し、平成 25 年度末までにすべての処理が完了しました。



□市内幹線道路・生活関連道路の復旧・整備

被災した 39 箇所 of 道路については、これまでに 34 箇所が復旧し、平成 30 年度中の完了を見込んでいます。

また、復興関連の市道 8 路線の整備を行っており、平成 27 年度までに 2 路線（釜ヶ沢東線及び駒形 1 号線）が完了しました。平成 28 年度中に 1 路線（金浜 6 号線）、平成 29 年度に 4 路線（新田平乙部地区道路、赤前上下線、磯鶏金浜線金浜工区及び河南高浜線）の完了を見込んでいます。



JR 山田線（宮古 - 釜石間）は、平成 27 年 2 月に関係自治体、三陸鉄道及び JR 東日本が鉄道の復旧及び三陸鉄道への移管に基本合意し、現在復旧工事が進められています。

市内路線バスは、平成 23 年 4 月には震災前の運行レベルにほぼ回復し、同年 6 月からは仮設住宅に対応した新規バス路線の運行を開始しています。



復旧が進むJR山田線閉伊川橋りょう

(平成29年1月)

■地域防災力の向上

□津波避難路等の整備

宮古市都市防災総合推進事業計画を策定し、整備を進めています。平成30年1月に藤原地区の避難路が完成する見込みです。今後も復興事業及び関連事業計画との調整を図りながら整備を行ってまいります。

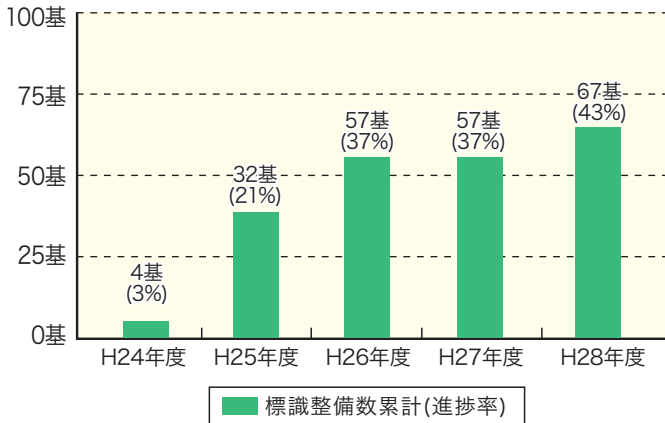


整備を進めている
藤原避難路
(平成29年1月)

□津波避難誘導標識の整備

平成29年1月までに、計画している156基のうち、67基の設置が完了しました。

津波避難誘導標識整備事業の進捗状況



□津波浸水表示板の整備

平成29年3月までに、計画している65箇所すべての設置が完了する見込みです。



磯崎駅に設置された浸水表示板
(平成29年1月)

□消防力向上のための取り組み

消防ポンプ車及び小型動力ポンプ積載車は平成23年度にすべて復旧しました。また、消防屯所についても、平成29年度までにすべて復旧する見込みです。

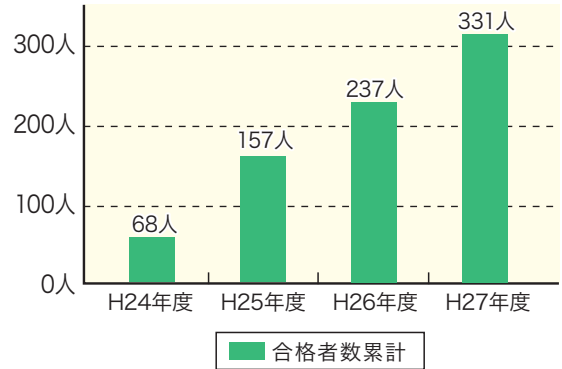


整備された鉾ヶ崎地区の第6分団屯所
(平成28年7月)

□地域防災力向上促進のための取り組み

地域防災のリーダー育成のため、平成24年度から平成27年度まで防災士養成講座を開催し、331人が防災士に合格しました。引き続き、スキルアップのためのセミナーを開催しています。

防災士合格者数の推移



■災害記憶の後世への継承

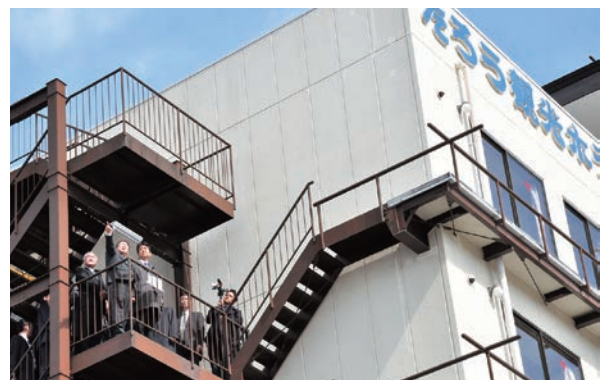
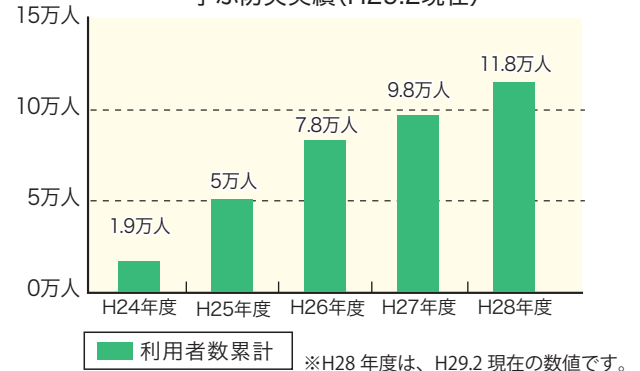
□震災資料の整理と震災記録の作成

平成25年度に『東日本大震災宮古市の記録』第1巻(津波史編)、平成28年度に被災体験や証言を収録した第2巻(復興・防災編/記憶伝承編)を刊行しました。

□津波遺構の活用

平成24年度から、田老地区で災害の記憶を伝える防災学習ツアー「学ぶ防災」を行っています。教育旅行や企業研修等でも活用され、多くの観光客が来訪しています。平成28年5月には、これまでの利用者が10万人に達し、記念セレモニーを開催しました。

学ぶ防災実績(H29.2現在)



津波遺構たろう観光ホテルを視察する安倍首相
(平成29年3月)

4 発展期に向けた取り組み

■ 中心市街地拠点施設整備事業



□ 施設概要

建設地 …宮古市宮町一丁目ほか
敷地面積 …約15,590㎡
主要用途 ……市民交流センター（仮称）、市本庁舎、
宮古保健センター
建築面積 …約4,843㎡
延べ面積 ……約14,069㎡
構造種別 …鉄骨造／耐震構造
階数、高さ …地上6階、約26m
駐車場 ……190台（来客用143台、公用車47台）
ほか駐輪場
付属施設 ……避難通路（自由通路）、エントランス
ゲート（宮古駅側入口）、公用車車庫棟

□ 配置計画

- 3つの施設を1つの建物として建設。移動がしやすい便利な施設として整備しています。
- 施設内通路を起点とし、スムーズな動線とします。誰にでも使いやすいユニバーサルデザインに配慮し、経路は分かりやすいサイン（表示）で案内。安全で、歩いて楽しい活気あふれる空間づくりを目指しています。

□ 今後のスケジュール

平成28年9月に建設工事に着手しました。完成は平成30年7月を見込みます。

■ スマートコミュニティ

再生可能エネルギーを“地産地消”で無駄なく有効に活用するため、官民連携により取り組んでいます。CEMS（地域エネルギー管理システム）と各施設・設備をネットワークで結び、需要と供給のバランスがとれたエネルギー利用を目指します。

<エネルギーの創出>

- メガソーラー
H27.9.15～ 津軽石発電所（1,607kw/約2.5ha）
H27.10.15～ 田老発電所（2,367kw/約3.4ha）
【特色】津波浸水により住宅等の建築を制限された区域に設置

<エネルギーの供給>

- 地域新電力
H28.9.1～ 地産電力（津軽石発電所）供給開始
公共施設や民間施設など市内54施設へ供給中
（H29.2.1現在）

<エネルギーの有効活用>

- BEMS（ビル用省エネ機器）
H28.3.30～ 公共施設2カ所に設置
- カーシェアリング
H26.4.1～ 自動車共同利用サービス開始
【特色】災害時は避難所などで非常用電源として活用
- 給電設備
H29.2.1～ 道の駅（みやこ・たろう・やまびこ館）で
電気自動車用の急速充電サービス開始
【特色】地産電力を供給

※引き続き、BEMSやHEMS（住宅用省エネ機器）の導入などを進め、スマートコミュニティのさらなる推進を図る計画です。



宮古スマコミイメージキャラクター
「あかりちゃん」「すむすむ」



←詳しくはこちら
スマートコミュニティ推進協会HP

三陸ジオパーク

三陸ジオパークは、平成25年9月に日本ジオパークとして認定されました。エリアは、青森県八戸市から宮城県
の気仙沼市までの3県16市町村で、その海岸線は約300kmにもおよぶ日本最大のジオパークです。

三陸ジオパークには、48のジオサイトと130か所のジオポイントがあり、そのうち宮古市には、5か所のジオ
サイトと浄土ヶ浜をはじめとする17か所のジオポイントがあります。



ジオパークとは

ジオパークとは、大地(ジオ)と人間の関係を見つめなおす公園です。地球科学的に価値の高い地質・地形のある自然遺産を保護・保全し、教育や防災、観光などに活用し、地域の持続可能な発展を目指すものです。

今後のスケジュール

平成29年秋には、日本ジオパークネットワークによる再審査を予定しています。再審査では、認定後の4年間で実施したジオパーク活動について審査を受けることとなります。



宮古市内のジオ・ポイント



① 田老の防潮堤



④ 津波記念碑



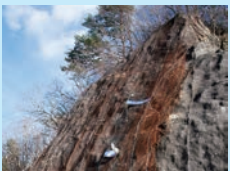
⑥ 震災メモリアルパーク中の浜



⑩ 崎山貝塚



⑪ 浄土ヶ浜



③ 津波到達点



⑤ 三王岩



⑦ 潮吹穴



⑫ 鮎ヶ崎



⑮ 腹帯の混在岩



⑯ 薬師川溪流の古生界



② 津波遺構たるう観光ホテル



⑧ 日出島



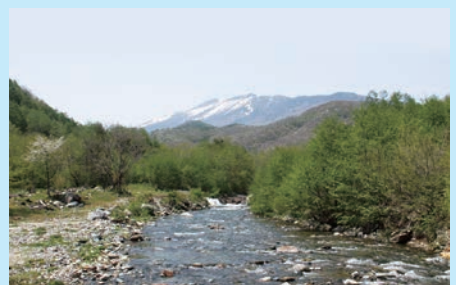
⑬ 十二神山



⑨ ローソク岩



⑭ 黒森神社・黒森神楽



⑰ 早池峰山

■フェリー航路

平成30(2018)年6月に本市と室蘭市を結ぶ岩手県初のフェリー航路が開設されます。

航路が開設されると、新たな観光ルートの創出や、道路交通網の整備と合わせた物流の効率化など、人、物の様々な交流が期待されます。

□航路の概要

- 運航計画 1日1往復
 宮古 8:00発 →室蘭 18:00着
 室蘭 20:00発 →宮古 翌6:00着
- 使用船舶 シルバークイーン(川崎近海汽船株式会社)
 定員 600名
 積載能力 トラック 69台(12m換算)
 乗用車 20台

□これまでの取り組み

- ・平成28年6月9日 宮古港フェリー利用促進協議会の設立(関係団体・広域町村など39団体により構成)
- ・フェリー航路開設を周知するため、県内3箇所(宮古、北上、盛岡)でセミナーを開催。
- ・荷主となる企業等へのセールスの実施。
- ・むろらん港まつり(平成28年7月)に出店し、宮古市の観光物産をPR。
- ・民間企業による異業種交流事業の実施。
- ・室蘭市の市民ワークショップに参加し、市民交流を実施。
- ・イベント等での航路周知活動や、PRグッズの作成。

□今後の予定

- ・セミナーの開催や、イベントでのPRなどによる航路開設周知
- ・セールスや、宣伝広告などによる貨物の集荷と旅客の確保に向けた取り組み



5 おもな復興事業の現況

区分	事業主体	路線・箇所名等	事業概要	現況	
復興道路	国	1 三陸沿岸道路	田老岩泉道路 (田老北～岩泉)	H29年度開通見込み	
			宮古老道路 (宮古中央～田老北)	田老第2IC～田老北1C H29年度開通見込み 宮古中央1C～田老第2IC H32年度開通見込み	
			宮古道路 (宮古中央インター線)	H25.3 宮古中央インター線 (千徳大橋)供用開始	
			山田宮古道路 (山田～宮古南)	H29年度開通見込み	
		2 宮古盛岡横断道路	宮古箱石道路 (宮古～箱石)	川井～箱石地区 H32年度開通見込み 下川井地区 H31年度開通見込み 暮目～腹帯地区 H32年度開通見込み 藤原～松山1C H32年度開通見込み	
			平津戸松草道路 (平津戸・岩井～松草)	H26.8.24起工式	
復興支援道路	県	3 国道 340 号	区界道路 (区界～築川)	H32年度開通見込み	
			宮古西道路	松山1C～根市1C H30年度開通見込み	
			小国	H25.11 供用開始	
			和井内道路	H29年度開通見込み	
復興関連道路	県	4 重茂半島線	立丸峠	H30年度開通見込み	
			押角峠	H32年度開通見込み	
			白浜～堀内	H27.3 供用開始	
土地区画整理	市	5 津軽石停車場線	津軽石	H30年度開通見込み	
			6 市道 北部環状線	山口～佐原 近内～山口 H28.12 供用開始 H30年度開通見込み	
			1 田老地区	区域面積：19.0ha 対象戸数：220戸 (民180戸・公40戸)	H28.3完成
防災集団移転	市	2 欽ヶ崎・光岸地地区	区域面積：23.8ha 対象戸数：270戸 (民230戸・公40戸)	H29年度完成見込み	
			1 田老地区	対象戸数：230戸 (民159戸・公71戸)	H27.9完成
			2 崎山地区(大付)	対象戸数：30戸 (民6戸・公24戸)	H25.12完成
			3 高浜・金浜地区	対象戸数：52戸 (民40戸・公12戸)	H27.6完成 (整備保留：民1戸)
			4 法之脇地区(津軽石)	対象戸数：12戸 (民12戸)	H26.3完成
津波復興拠点	市	5 赤前地区	対象戸数：46戸 (民46戸)	H27.1完成 (整備保留：民4戸)	
			1 津軽石地区	区域面積：約1.2ha	H28年度完成見込み
漁業集落防災機能強化	市	2 中心市街地地区	区域面積：約1.6ha	H30年度完成見込み	
			1 摂待地区	対象戸数：3戸 (民3戸)	H25.7完成
		2 堀内地区	対象戸数：2戸 (民2戸)	H26.3完成	
		3 浦の沢・追切地区	対象戸数：2戸 (民2戸)	H25.3完成	
		4 音部地区	対象戸数：3戸 (民3戸)	H26.7完成	
		5 重茂地区	対象戸数：21戸 (民17戸・公4戸)	H27.3完成	
		6 千鷲地区	対象戸数：3戸 (民3戸)	H25.12完成	
		7 女遊戸地区	集落道他	H29年度完成見込み	
		8 石浜地区	対象戸数：2戸 (民2戸)	H26.7完成	
9 田老野原地区	集落道、用地造成	H29年度完成見込み			

区分	事業主体	路線・箇所名等	事業概要	現況		
まちづくり連携道路	県	1 崎山宮古線	欽ヶ崎	H28年度開通見込み		
		2 重茂半島線	熊の平～堀内	H30年度開通見込み		
		3 重茂半島線	堀内～津軽石	H30年度開通見込み		
		4 重茂半島線	里	H30年度開通見込み		
		5 重茂半島線	千鷲	H29年度開通見込み		
		6 重茂半島線	石浜	H30年度開通見込み		
		7 重茂半島線	川代	H29年度開通見込み		
災害公営住宅	市	1-① 田老三王Ⅰ	戸数 36戸 木造2階	H27.10完成		
		1-② 田老三王Ⅱ	戸数 29戸 木造1階・木造2階	H28.3完成		
		1-③ 田老三王Ⅲ	戸数 6戸 木造1階	H28.3完成		
		2 田老	戸数 40戸 RC造5階	H27.11完成		
		3 崎山	戸数 24戸 RC造4階	H27.3完成		
		4 日の出町	戸数 26戸 木造2階	H27.4完成		
		5 港町	戸数 40戸 RC造5階	H27.12完成		
		6 和見町	戸数 23戸 RC造5階	H27.3完成		
		7 黒田町	戸数 24戸 RC造5階	H27.8完成		
		8 山口	戸数 23戸 RC造4階	H29.1完成		
		9-① 近内Ⅰ	戸数 40戸 RC造5階	H26.3完成		
		9-② 近内Ⅱ	戸数 40戸 RC造5階	H27.3完成		
		10 西ヶ丘	戸数 24戸 RC造4階	H27.4完成		
		11 高浜	戸数 12戸 木造2階	H26.4完成		
12 金浜	戸数 12戸 木造2階	H27.11完成				
13 赤前	戸数 14戸 木造2階	H26.11完成				
14 重茂	戸数 4戸 木造1階	H27.6完成				
県(市営)	市	1 本町	戸数 34戸 RC造8階	H27.9完成		
		2-① 西町1号棟	戸数 30戸 RC造5階	H27.6完成		
		2-② 西町2号棟	戸数 23戸 RC造4階	H27.6完成		
		3 津軽石	戸数 35戸 RC造5階	H27.7完成		
		4 上村	戸数 24戸 RC造4階	H28.3完成		
		県(県営)	市	1 上鼻	戸数 24戸 RC造4階	H27.7完成
				2 八木沢	戸数 42戸 RC造5階	H27.10完成
3 佐原	戸数 50戸 RC造5階			H27.2完成		
4 磯鷲	戸数 30戸 S造2階			H27.3完成		
5 宮町	戸数 20戸 S造3階			H27.3完成		
6 鴨崎町	戸数 20戸 S造3階			H27.9完成		
7 実田	戸数 17戸 S造3階			H27.7完成		

※民：民間宅地 公：公営住宅 ※スケジュールは、平成29年3月1日現在における計画であり、今後、変更する可能性があります。